

高島藤樹会

発行

NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

滋賀県高島市安曇川町上小川225-1

電話・FAX 0740(32)4156

就任のご挨拶

会長 川越 清司

このたび高島藤樹会におきましては、特定非営利活動（NPO）法人高島藤樹会として活動することになりました。その機会をもとに会長就任という大役を仰せつかりました。この会は高島市の合併とともになって発足し上田藤市郎前会長が八年の間に大きく育てられました。このような時に、浅学非才の私が会長職とは正直大変戸惑っています。

私は青柳小学校で萬木甚一良先生に藤樹先生のことを約三年間にわたり、ワンパク坊主達に幻燈（げんどう）や読み聞かせなどを通じて藤樹先生のことをよく教えていただき卒業いたしました。今は学校ではそれでよく覚えているのは、小川村の人たちが衣服を着替えて先生の墓所を案内されたということをよく教えていたしました。今は学校ではそのような時間が充分にあるとは聞いていませんが、あの時に習ったことでもよく覚えているのは、小川村の人たちが衣服を着替えて先生の墓所を案内されたという話は忘れられません。藤樹先生の遺徳が最も偲ばれるのは藤樹書院（良知館）にあると思います。それは約三百數十年にわたり小川村の方がお世話をし、守つておられます。そのような処に高島藤樹会の事務局を置かさせていただき、先生の徳にふれさせていただけることに深く感謝申し上げます。

時代も大きく変わり、变得てはならないもの迄もが変わっていく大変気をもむところでございます。「藤

樹教育の師父」と言わられた森信三先生がしつけの三原則で一つ、朝、必ず親に挨拶をする子にすること、二つ、親に呼ばれたら必ず、「ハイ」とハツキリ返事のできる子にすること、三つ、ハキモノを脱いだら必ずそろえ、席を立つたら必ずイスを入れる子にすること、この三つのことが大人も子供も共に実践できれば荒んだ世の中が大きく変えられる第一歩になると話されておられます。藤樹先生の教えの中に慎独という言葉がございます。このことは自分を振り返る大切なことです。たくさんの方々が高島藤樹会の行事に参加していただき、自分を振り返る道具にしていただこうと願います。たくさんの方々が高島藤樹会の行事に参加していただき、自分を振り返る道具にしていただこうと願います。

今後、皆様の多大なご協力をお願ひいたします。そして挨拶に代えさせていただきます。

退任にあたり感謝

前会長 上田 藤市郎

二〇〇六年（平成一八年）に高島藤樹会が発足して以来、國らずも会長を務めさせていただき、今回、その任務を退かせていただきました。

ふりかえりますと、「藤樹先生生誕四〇〇年」の事業とのかかわりで、高島市、藤樹書院、中江藤樹記念館の皆様の多大なご指導をいただき、講師の先生からは、いずれも貴重なお話を伺うことができました。藤樹先生の志学の地、大洲市を高島市民

の方々と訪れ、また高島市へ来られた大洲市民の方々との交流を得ました。毎年、藤樹先生関連の紙芝居を開催しておられる方々、NPO法人への発足に並々ならぬご尽力を頂いた方々など、二四〇名余の個人会員、法人会員の皆様のご協力のお陰で事業を進めることができたことに對して厚くお礼申し上げます。さらに藤樹先生の教えを様々な世代に広げる活動では、幼稚園、保育所、小中学校、高等学校、地域の自治会や公民館での事業など、さまざまな団体などで受け入れをいただいたことに深く感謝申し上げます。

藤樹先生は、四〇年余の生涯で、その史実だけをたどつてみても、四〇〇年にわたつて時代の人々の記憶に残る人生を歩まれたことがわかります。とりわけ、「馬方又左衛門」の逸話が先生の存命中に広く全国の人々に知られたことからも、先生の生き方が鮮明に伝わってきます。戦前、戦後を通じて、時代の風潮に左右されずに藤樹先生への思慕と敬意を維持してこられた小川村の人々と関係者の皆様に圧倒されます。

時代の変遷にかかわりなく「まつすぐ生きること、粘り強く正義を実現すること」の重要性は、近年ますます高まっております。高島藤樹会の更なる発展を願つて皆様への感謝のことばと致します。

楽しんで学べる 藤樹教材づくり

教材委員会 北川暢子

ふり返ると二〇〇七年の暮れのこと。生誕四〇〇年祭実行委員会から

藤樹先生生誕四〇〇年の記念事業の一つとして、

啓発資料の作成を依頼さ

れました。

教材委員会は紙芝居の

制作をしようと相談し、

みんな張り切りました。

素人集団の手作り作業で

『子どものころの藤樹さん』『車が田に落ちた』

を制作することができま

した。この二作は、県内

全小学校・幼稚園・保育

園と大洲市の全小学校に

配付されました。素人集

団の未熟なものでありま

したが、楽しく学べる教

材・資料として喜んでも

らうことができたので

二〇〇八年は、印刷工

法の変遷で廃版になつて『藤樹かるた』再版の要請に応え、リ

ニユーアルに取り組みました。市内の全保・幼・小の各施設に必要数を配付しました。

この二つの取組は、藤樹先生の道



徳を楽しんで学ぶ教材

として有効であるとの評価をいただきました。

とができます。

高島藤樹会の会議

や普及に役立つ紙芝居

作りを続け

てはどうか」という提案があつて、

その後は、安曇川支所の地域事業の助成金をいただき、また本会の特別

会計から、大切な基金の拠出によつて毎年二巻ずつ発行を続けていま

す。昨年度末で十三巻を発行。今年度も与右衛門さんの多感な風早での少年時代に焦点を当てた二作を作中です。

現在、高島市では藤樹先生の生誕日三月七日頃に各小学校で『立志祭』や『二分の一成人式』が実施されています。この頃を中心いて藤樹先生の生き方や教えを学ぶ資料として紙芝居やかるたが活用されています。紙芝居は、老人会、人権学習会、子ども会等でも人気があり、要請を受けて出かける機会が増えてきています。

藤樹人間学会

田中清行

高島藤樹会は、藤樹先生の思想の研究と藤樹思想を高島から日本中に発信していくことを目的にしています。

学習委員会では、藤樹思想の研究とそれを日常生活に活かすことを目

的に平成二十三年七月に安曇川公民館で学習会を開始しました。皮切りは、廣瀬童心先生に「藤樹先生に学ぶ人間学」の講演をしていただきま

した。次に数回、中江彰先生に、そ

の次に数回、上田藤市郎先生に藤樹先生のお話をしていただき、皆で話し合いました。

平成二十四年四月からは、「藤樹人間学学習会」として、毎月第

二水曜日の夜に藤樹先生の主著である『翁問答』(現代訳版)を皆で輪

読し、その意味を皆で考

える、そして日々のトピック

を皆で輪読し、その意味を皆で考

える、そして日々のトピック

を皆で輪読し、その意味を皆で考

える、そして日々のトピック

を皆で輪読し、その意味を皆で考

える、そして日々のトピック

を皆で輪読し、その意味を皆で考

える、そして日々のトピック

を皆で輪読し、その意味を皆で考

える、そして日々のトピック

を皆で輪読し、その意味を皆で考

える、そして日々のトピック



います。二十五年十一月で二十八回を数えました。久保田暁一先生が毎回ご出席いただき、見守つて下さっています。お茶とお菓子をいただきながら仲間とゆつたりとした雰囲気で進めています。三ヶ月に一回は、場所を変えて一時間学習し、その後懇親会をして楽しんでいます。

皆さん、どうぞご参加ください。

藤樹先生に親しむ会

上田 藤市郎

●開催日：毎月第一日曜日

14時30分～16時

●会場：上小川 藤樹書院

●参加者：藤樹会会員、藤樹先生に親しむ会、その他関心のある人など十数名

●活動内容：藤樹書院は、藤樹先生が塾生とともに学ぶ場所として、藤樹書院と名付けられ、「藤樹規」を掲げておられた場所でありますから、ここで先生関連の書物を読むことは、誠に意義深いこと

と思い、月例の行事として実施しています。

先生関連の書物は、いずれも漢文、古語を読むこととなるので、

会員同志が少しづつ講読を進めてきました。「孝經」を毛筆で書く

機会などももちましたが、ふだんは、先ず原文を音読し、みんなで意味を考え、引用文については、その原典を参照します。今年度は、論語普及会の「仮名論語」を読んでいますが、仮名論語を音読した後、必ず「論語」の原文を素読して、互いに意味を考え、感想を述べ合つたりしています。

途中で休憩をとり、会員が費用を出し合つて、お茶菓子をいただいている。

近年、全国各地で子どもや成人を対象にした論語の素読が広まっています。このような学習は、功利的なねらいをもつものではなく、藤樹先生が「藤樹規」で明示しておられるように、「學び」とは、「修身」そのものであろうと思います。日常生活の中で、ひとき学びへの意欲を自らかきたて、しかもこれを継続してやめないことが何よりも大切なことと考えています。

これからもいつそう多くの方々の参加をお待ちしています。

これまでの講読書

- 「藤樹規」(平成二十二年度)
- 「孝經」(平成二十三年度)
- 「鑑草」(抄本)
- 「翁問答」(平成二十四年度)
- 「論語」(平成二十五年度)

大洲まつりへの参加



（事務局）
す。
これからもいつそう多くの方々
の学校等に配付されると
こので

十一月三日四日、足立清勝さんと川越清司さんが魅力ある地域づくり事業の一環で、大洲市で開催された「大洲まつり」に参加されました。

現地では、高島地域の物品を販売したり、大洲市民の皆様と親しく交流したりされました。その際には、高島藤樹会の作成した紙芝居「久子夫人と先生」「遺徳を守る人々」各二十五組を、大洲市教育委員会に贈呈されました。これらは、紙芝居は、大洲市内の学校等に配付されるとのことです。

「伝え継ぐ藤樹先生」

近江聖人中江藤樹記念館

館長 横井 正

樹生誕三百八十年を記念し、昭和六十三年三月に開館しました。当館は、第一展示室・第二展示室・図書室を備え、人物「中江藤樹」とその教えを顕彰することを目的にして運営しています。

第二展示室は、藤樹の遺品・遺墨を中心約六十点、第一展示室は、藤樹研究関係者の遺品などを中心に約五十点を常設展示しています。また、第一展示室には、小企画展スベースを設けており、六ヶ月ごとに藤樹に所縁のある人や庶物を特別展示しています。この小企画展は、平成十一年十二月に行つた第一回「伊予の小京都・大洲写真展」を皮切りに、第六回「藤樹先生の手札本」第十三回「愛敬の教育者・松本義懿展」第二十二回「佐藤一齋の書跡」第二十三回「西晋一郎博士の回顧」などを行い、現在開催中の「中江藤樹の顔展」は、二十四回を数えます。

ところで、藤樹の顔ですが、米子市や大洲市・高島市をはじめ、全国で成長年齢期や生活拠点ごとに

制作された数々の肖像を見つけることができます。そこで、その肖像をご覧いただき、①「藤樹心学（良知心学）」を確立する過程における苦悩や自信などの藤樹自身の心情②温厚篤実・厳格等の藤樹の人格③江戸時代前期・中期・後期・大正・明治時代、各々の時期における人々の藤樹に対するイメージの変遷等を想像していただきたいと思い、小企画展「中江藤樹の顔展」を開催しております。藤樹のさまざまな顔から「聖人への道のり」の深みを感じていただきたいと思います。

顔展では、肖像掛け軸・座像・教科書等の挿絵・写真パネルなど総数二十五点を展示しています。左にその一部を紹介します。

二見直養所蔵の深衣を肖像用した軸装

大洲市立博物館所蔵若宮養徳査の肖像軸装

藤樹の母と瀬岡山が相談し描かれた肖像軸装

大溝藩「修身堂」に掲げられていた肖像軸装

寄稿 会員のひろば 「心温まるお話」

愛語 徳丸和枝

藤樹先生の「五事を正す」の中の「言」は思いやりのある言葉で話しかけるとあります。

最近読んだ酒井大岳師の「愛語に学ぶ」に、高校の書道教師をしていた頃のクラスの女の子の話が載っています。

彼女は火傷で三歳の時左手を切断し、三年間養護施設で過ごします。

満六歳になつて小学校へ入学しようと最後の日に、園長先生がこう言つたそうです。

「Kちゃんは三年ここに来ていたから小学校へ行つても知らないお友達ばかりと思うの、そうするとお友達がKちゃんのそばに寄つてきて『その手どうなつてるの?』と言うと思う。その時つらいだらうけど笑顔でお手手見せてちよだい。そして

『小さい時火傷して、もいでしまつてこんなに短いお手手なの』と言つて泣かないで見せてあげるの。そうするとお友達は二度とお手手のこと

は言わなくなるわ。決して泣いたらしゃだめよ』そう言つて園長先生は彼女をぎゅっと抱きしめ、声を殺して泣いたそうです。彼女も園長先生の胸で泣きました。

彼女は小学校に入學してから園長先生との約束通り、義手をはずし

短い腕を見せ、「このお手手まるちゃんよ」と明るく笑つて伝える子となり、高校生になつて「園長先生が私に言つてくれた言葉はまさに愛語だつたと思います」と酒井師に話しました。

「愛語よく廻天の力あることを学すべきなり」(その人の人生を根底から変えてしまう力がある)〔正法眼藏〕やさしい言葉、なぐさめてくれる春風の如き言葉とは別に、将来を思いやつた秋霜のきびしい言葉でしたが、彼女にとつては生き方を強く変えた言葉になりました。

けだし言は心の声なり、ゆえに心あつて言に発し、言に因つてその心を知る(「孝經啓蒙」)

雜感 多胡賢

具志堅用高氏、現在タレントとして数々のバラエティ番組に出演し、陽気なイメージの、独特的のキャラクターで多大な人気を集められてゐる。ボクシング元ジュニアフライ級世界王者です。彼の戦績は総試合数二十四、勝ち二十三(KO勝ち十五)、負け一、世界王者十三度防衛というすごいものです。

ファイタータイプのボクシングスタイルにもかかわらず、日頃の言動に優しさを振りまいていたといふ。そんなに優しいのによく勝てるなあと言われ「だつて優勝つて、優しいものが勝つと書くでしょう」と答え

たという。

二十年前、会社の経営理念を創るときこの話が伏線となつた。出来上がった理念は「働く人への思いやり、お客様への思いやり、地域社会への思いやりの心で・・・」となつた。その後こんな名言を知つた。「強くなれば生きていけない。優しくなければ生きている資格がない」出典は作家レイモンド・チャンドラーがその作品の中で探偵フィリップ・マーロウに言わせたと聞く。以来私の好きな言葉の一つとなつた。

强国中国の、唐突な防空識別圏設定問題。トピック的には少し前になりますが、体育系監督・コーチによる体罰問題、有名デパート・レストランの食材偽装など、全て強いものの姿勢が問われていると思われてならない。生きている資格ありますか?と。

人を思いやる気持ち 飯田典子

三年生の担任をしていた一月末の、卒業試験を数日後に控えたある朝のことでした。一人の生徒が珍しく遅刻して登校しました。理由を聞いても、本人は大したことではないと言います。でも、よくよく聞いてみると、次のように説明してくれました。「朝の登校中に、目が悪く杖をついて歩いていた小さなおばさんが、病院へ行く道を尋ねてきました。

した。私は学校へ急いでいたけど、このままおばあさんを放つておくことができなかつたし、学校からもその病院が近かつたので、そのおばあさんを送つていくことにしました。そのおばあさんは毎朝一人で病院に通つています。道はほんやりとしか見えない上に、その日はどこかで方向を間違えてしまつたそうでした。毎朝病院へ行くまでの道で、赤いバケツと花壇を目印にしていて(はつきりした明るい色は見えるらしい)、その道を通つた瞬間、この先からはもう大丈夫とのことで、学校に行つていいよと言されました。おばあさんは何度もありがとうございます。親切にしていただけてありがとうございます。生きている資格ありますか?と。

私は、学校に遅れずに行くことより、おばあさんの力になつて上げることを瞬間に選んだこの生徒を誇らしく思いました。そこには他人の立場に立つてその心細さや不安感を感じ取る「想像力」が働いたのだと思います。これはまさに現代の若者に欠落している、とよく言われてゐる力なのです。あれから二年。生徒は無事卒業し、今年は成人式を迎えました。私はこうした先輩の話を、後に続く生徒達に伝えることで、彼らに想像力豊かな社会人になることを期待していきたいと思つています。

藤樹先生に学んで・・・



大洲小学校では、五年生の子ども達とともに、キャンプでの交流を実現しました。

大洲市には八月六日から八日まで滞在し、国立青少年交流の家に宿泊しながら、小学生との交流や藤樹先生ゆかりの史跡めぐり、カヌー・クライミング体験、うちわづくりと楽しい体験をさせて頂きました。

【一年】『くるまが田におちた』(担任) 北川
【二年】『子どものころの藤樹さん』(担任) 北川
【三年】『そばやのかんばん』(担任) 北川
【四年】『「鏡草」より』(担任) 北川
【五年】『おいはぎと先生』(担任) 北川
【六年】『おじいさんと米子へ』(担任) 北川
【四年】『馬方又左衛門』(担任) 北川
【五年】『小川村でのくらし』(担任) 北川
【六年】『大野了佐を教える』(担任) 北川
【六年】『熊沢蕃山の入門』(担任) 北川
【六年】『あかぎれこうやくの話』(担任) 北川
【六年】『ふるさとの母と脱藩の道』(担任) 大洲高校内

よえもん道場
藤樹キャンプ
「藤樹先生をたずねて」

高島市青少年育成市民会議
会長 海老澤 文代

学生たちが来訪していることを受けて、是非一度高島市をよえもん道場のキャンプと言ふ形で実現しました。

大洲市には八月六日から八年まで滞在し、国立青少年交流の家に宿泊しながら、小学生との交流や藤樹先生ゆかりの史跡めぐり、カヌー・クライミング体験、うちわづくりと楽しい体験をさせて頂きました。

の至徳堂や大洲城などを案内いただき、若かりし中江藤樹先生の像などを拝見しました。

これからも、藤樹先生の教えが活きており、大洲市との交流を大切にしてゆきたいと実感した三日間でした。

藤樹先生の教えに学ぶ

マキノ南小学校長 小久保 義直

本校では六年前から北川暢子先生のご指導のもと「良知に学ぶ学習」に取組んでいます。この取組は北川先生の授業を見せていただくことと、担任の授業について指導していくただくことです。今年度は次の様に進めていきます。

又左衛門ウォーク
湖西中学校頭 浦島利昭

感し、活発な話し合いができるようになりました。

高学年になると学習の積み重ねができ、み重ねができます。大野了佐の授業を見て、も医師になりたい大野とそれをサポートしている藤樹先生について世代を超えて共に語り歩き、改めて仲間の大切さとともに、ゆっくりと景色や名所を見ながら歩き、改めて仲間の大切さを感じ取ることができました。

一年生は、十二月七日には、藤樹先生の教えを学ばれた、桜美林学園創設者である清水安三先生生物語の観劇に行きました。一年生は、藤樹先生の教えを学ばれた、桜美林学園創設者である清水安三先生生物語の観劇に行きました。また、ふだん通り過ぎるだけのところを、仲間と一緒に歩き、改めて仲間の大切さを見ながら歩き、改めて仲間の大切さを感じ取ることができました。

路でこどもの国、風車村そして学校です。これまで、地域の方から、又左衛門の碑の場所で教えていただいたり、市の朗読劇団の方から朗読劇を聴いたりしました。又左衛門の歩いた距離まではいきませんでしたが、二日間で二十八kmを歩き、これから生き方につなげることができます。また、ふだん通り過ぎるだけのところを、仲間とともに、ゆっくりと景色や名所を見ながら歩き、改めて仲間の大切さを感じ取ることができました。

そのまとめとして、十一月十一日から一泊二日で又左衛門ウォークを行いました。一日目はあいにくの高島時雨のため距離を短くして、北小松から白髭神社、乙女ヶ池、大溝城通り大阪市青少年の家へと向かいました。二日目のコースは湖周道



今後の活動予定

賛助会員のご紹介

理事会報告

○「中江藤樹心のセミナー」と「交流会」のご案内

■会員以外の皆様も、どうぞ■
平成二十六年二月十五日(土)

日時 午後二時開演

場所 安曇川公民館

演題 「藤樹先生の教えを今、
ここ、自分に活かそう」

講師 廣瀬童心先生

参加費 無料(講演会のみ)

*講演の後、藤樹先生の史跡を散策
(約一時間)し、午後五時から交
流会も開催予定(会費五千円程度)

平成二十五年十二月現在で、本会
の賛助会員としてご加入いただきま
した法人は次の通りです。(敬称略)
ご協力ありがとうございます。

○株式会社 桑原組

高島市安曇川町西万木

○鉄屋商事株式会社

高島市勝野

○株式会社 TADコーポレーション

高島市野田

○中村印刷株式会社

高島市勝野

○ニッケイ工業株式会社

高島市安曇川町川島

○社会福祉法人 新旭みのり会

高島市新旭町藁園

十一月九日に、安曇川公民館に
おいて第二回理事会が開催されまし
た。主な内容は次の通りです。

①中江藤樹心のセミナーの件

・上段に記載しています。

②二十六年度事業計画書の件

・藤樹市民講座(案)等を計画

③広報誌(会報)発行の件

・年三回程度の発行をめざして

④藤樹賞事業の件

・これまでの賞に市民賞や子ども
も賞等を加えるなど、次回に提
案・協議する。

⑤事業担当の件

・各理事はいずれかの委員会に所
属する。

⑥その他

・今後、地区代表の理事を置いて
はどうか。

寄稿のお願い

●『会員のひろば』コラムでは、次号も「心温まるお話」をテーマとします。体験談、エッセイ、手紙、詩・歌などを六百字以内で、下記宛てにお寄せください。

〒520-1531 高島市新旭町新庭2778
三田村 治夫 宛 (広報担当)
Tel・Fax 0740 (25) 2246

「信」と「偽」

翁問答の一節に、藤樹先生が「信

は天徳の至誠で人間真実無妄の心理
であり、五常百行の根本であつて
……」と説かれているところがあり
ます。

お年寄りを騙してお金を盗る、い
わゆるオレオレ詐欺が後を絶ちませ
ん。加えて、一流レストランでは偽
装メニューや、JR北海道では線路幅
未点検で放置、百貨店イオンでは国
産米に中国産米を混入、公立大学病
院では製薬会社から委託された新規
薬剤臨床検査の結果データを操作し
て報告、楽天の優勝セールに乗じた
不正価格での販売、お年寄りを狙つ
た投資詐欺……と日本の社会に「偽
装・詐瞞」が充満してきています。

これでは、「落した財布が戻つて
くるのは日本だけ」との安土神話も、
まもなく昔話になりそうです。「信」
を尊び、お互いの信頼で社会を築い
てこられた先人・先輩にしつかり学
んでいきたいものです。この「会報」
もそのような一助となるよう、ご支
援・ご指導をお願いいたします。

なお、過日の理事会では、楽し
く読んでもらえる会報にしてほしい
……との注文がありました。そのための
アイデアやご意見をお寄せくだ
さい。

(広報担当)



廣瀬童心先生

講師紹介

(略歴) 昭和十九年米原市生まれ。
元中学校長。四十歳より道友誌「ま
なざし」を毎月発行して、ご縁ある
方々にご恩報謝している。月一回「寺
子屋まなざし童心塾」を十五年間続
け、平成二十五年十月に長浜市で行
われた十五周年記念祝賀会では、「ま
なざし」読者百余名から祝福を受け
た。

平成二十五年五月より「実践人の家」
理事長に就任。